

パネルディスカッション

(官民一体となった保存と活用を考える)

遺産や遺構とまちづくり
～次世代への継承のために～

安武 敦子

長崎大学大学院工学研究科 准教授

平成26年度大学改革シンポジウム
「長崎の産業遺産、被爆遺構の保存と活用を考える市民シンポジウム」

遺産や遺構とまちづくり

長崎大学工学研究科 准教授 安武敦子

観光（見る対象）の非日常 -江戸時代-

『吉野山勝景絵図』 奈良県立図書情報館所蔵

- ▶ 中世近世を通して和歌や名所図など文や絵画多数
- ▶ 近世に観光ができる人は上流階級や風狂人に限られる



手に入れ難いものが尊ばれる傾向

見に行く対象と生活の乖離

- ▶ 「人は風景というものを心やすく、かつ自由に楽しむことができるようになった。それは明治大正の新しい産物である。
- ▶ しかしこれほど親密に我々の生活に織り込まれているものを多くの人には自分の物と思っていない。衣食住を楽しくするように、風景を統御することができないとあきらめているものが多い。
- ▶ この無関心のために未来の幸福を壊そうとしている。」

柳田国男「風光推移」

(樋口忠彦：日本の川のけしき，河川文化を語る会講演集 <その27> 日本河川協会所収)

ある集落の事例

- ▶ 1950年頃、棚田による米作りが近代化農業の路線に乗れず、高度経済成長とともに人口減少。
- ▶ 1970年末から農村活性化策→体験農業等を姉妹都市と実施、1990年には廃校になった小学校を宿泊施設に。
- ▶ 2004年中越地震。全村避難となり、仮設住宅へ。
 - ▶ 避難勧告のなか、自力で集落に戻り、棚田の修復・家屋の手入れを行う。
- ▶ 2005年避難勧告が解け、震災前の54戸のうち43戸が帰村。最も高い帰村率。

【集落の創造的復興へ】

- ▶ 集落+支援組織+自治体『法末たっしやら会』を立ち上げ、農泊体験，貸し農園，足湯，天体観測小屋，特産品づくり，パソコン指導，オープンガーデン。

観てもらおうということ

- ▶ 見られることによる相対化
 - ▶ 建物などにも意識が波及
- ▶ 褒められエネルギー



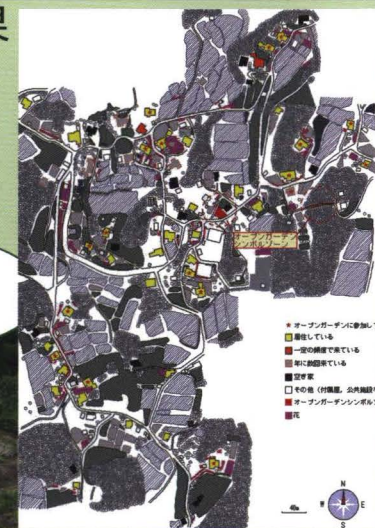
オープンガーデンの効果

- ・おもてなしの庭づくり
- ・シンボルゾーンづくり

荒れ地の解消
景観の向上

生きがい
集落の活性化

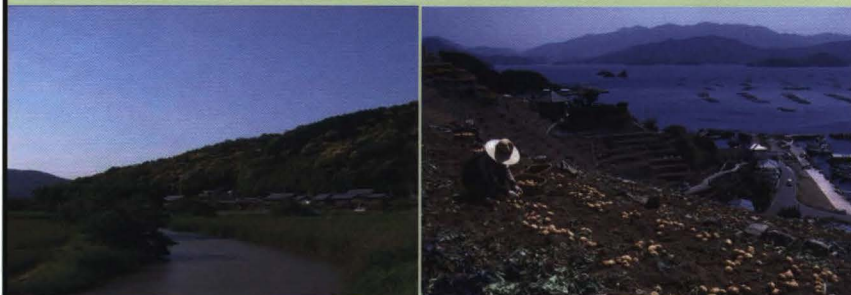
収益・雇用



オープン
ガーデン
分布図

文化的景観にみる人の営み

- ▶ 人+もの（遺構・遺跡・景観）
- ▶ 守る仕組みも含めて文化財の対象



▶ 近江八幡の水郷（近江八幡市）

▶ 近江八幡市域の北東部に広がる西の湖とその周辺に展開するヨシ原などの自然環境が、ヨシ産業や内湖と共生する地域住民の生活と深く結びついて、独特の発展を遂げた景観

▶ 遊子水荷浦の段畑（宇和島市）

▶ 宇和海沿岸地方において近世から現代に至るまで継続的に営まれてきた半農半漁の生業・生活の在り方を示し、急峻な地形や強い季節風など地域の風土とも調和して展開した雑段状の畑地から成る景観

遺産からのまちづくりのために

大切なものの認識

外部の眼

それに関わること

褒められる

言う・書く・描く...

同意・同調・賛同

息切れしない体制

経済的還元